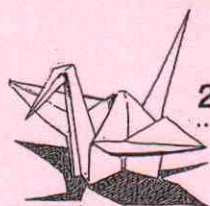


戦争はやめて!

森のひろば

123号

123号



2011年 8 月発行 宇佐市民図書館



がくどうそかい 学童疎開について

しゅうせん いちねんまえ しょうわ にほん くうしゅう きげん とかい
終戦の一年前の1944(昭和19)年から、日本は空襲の危険のある都会
の子どもたちを、くうしゅう すく ひなん 避難させることにしました。これが
がくどうそかい えんごそかい しん
学童疎開といわれるものです。「縁故疎開」といって親せきなどをたよるものと、
がっこう しゅうだんそかい
学校でまとまってる「集団疎開」がありました。どちらも、みなさんとかわ
らないうしでおとうさんやおかあさんとはなれてくらすことになったのです。そかいさき
はお寺や旅館などだったそうです。

しゅうだんそかい
集団疎開のほうではきびしい決まりごともありました。あさ 5 時半くらいに
おき、じゅぎょう のうさぎょう てつだ やくそう
起き、授業のほかにも農作業の手伝いや薬草とりなどもやらされました。あそ
時間も決められていました。そして入浴は三日に一度くらいだったそうです。
かぞく
家族と会うこともあまりできませんでした。

しかし、疎開させたから完全に安全だったかということとそんなことはありません
んでした。びょうき 病気になる子もいました。そかいさき くうしゅう ひがい かじ など
疎開先で空襲の被害や、火事などで亡く
なった子たちもたくさんいました。1944年8月22日には沖繩からそかい
する子どもたちをのせた疎開船「対馬丸」がそうとは知らないアメリカのせんすいかん
魚雷をうたれてちんぼつ 沈没し、775人の子子どもたちが亡くなりました。

せんご ぶじ いのこ
戦後、無事に生き残った子たちも、おや むか
親が迎えにこれずにそかいさき からかえ
なったりしてとてもつらい目にあった子もたくさんいました。せんそう
戦争はこの子
たちからたのしい時間をたくさんうばっていきました。せんそう
戦争はいのちだけでなく
くさんのしあわせをかんたんにのみこんでいきます。けつ
決してこんなかなしいこ
とをくりかえしてはいけないのです。

さんこう せんそう じてん いんよう
参考しりょう「戦争とくらしの事典」より引用



『はとよひろしまの空を』



よりあらすじ紹介
大川悦生 作
ポプラ社 刊

小さなミチル号

広島市のある家のやねには小さなはと小屋がありました。二羽の親ばとと、三羽の子ばとが仲良くくらししていました。親も子も手紙をとどけることをおしえられていました。お兄さんが「にのしま号」、おねえさんが「くろかみ号」、そしていちばん下の妹が「ミチル号」でした。かいぬしはあきら君というやさしい少年でした。戦争のなかでもたいせつにされてミチル号はしあわせでした。

あきら君のゆめ

そのころの中学生に夏休みなんてなく、あきら君も兵隊さんのお手伝いなどきつい仕事をさせられていました。そして、たまの休みの日にはおばあさんの家でお手伝いをして

ミチル号たちのえさをもらってきま

す。あきら君には夢見ていたことがありました。それはミチル号たちを強く育てて、南の島で戦っているお父さんに手紙を届けてもらうことでした。



八月六日

その日はとてもあつい日でした。その日またまねぼうしたあきら君は、あわてて家をとび出していきました。ちようど八時になるところでした。三羽のきようだいばともとびたちました。このときまではいつもの広島町の町でした。

三羽が家に帰り着いたそのときでした。空から一個のぼくだんが落ちてきたのです。ピカーツつと、ミチル号は目がくらみ、体じゅう焼けつくようなあつさを感じました。ミチル号は小屋ごと吹き飛ばされました。小さなミチル号はむちゆうで

「たすけて！うち苦しい。にいさんどこ？」

ときけびました。するとお兄さんのにのしま号がかなあみの下から出てきました。とても大きなけがをしていました。おねえさんのくろかみ号たちはどうなったかまるでわかりません。つぶされた家の下にはあきら君のお母さんがとじこめられて出られなくなっていました。にのしま号はミチル号にあきら君を呼んでくるように言いました。空へあがるとまわりは火の海になっていました。ミチル号はこわさをこらえて、あきら君をさがしました。そして、くずれた石だんのちかくでひどいやけどをしたあきら君を見つけたのです。

「母さんやられた ぼくまだ死なん水ほしい」

あきら君はやつとの思いでそれだけ紙きれに書き、ミチル号にお母さんにと

どけてほしいとたのみました。ミチル号はうなずき、紙きれをくわえてとびたちました。しかし、ミチル号が帰ったときにはもう家は火に包まれていました。

「うち、どげえしたらいいんじやろ」まだ小さなミチル号はたった一日でひとりぼっちになってしまったのです。

広島に落とされたのは原子ばくだんというばくだんでした。多くのいのちをうばい、まちをおしつぶし、体を病気にするほうしやのうをまきちらしたのです。



ひとりぼっち

戦争のあと、ミチル号は毎日あきら君の手紙をくわえてお兄さんたちをまちつづけました。しかしいつまでたってもだれも帰ってきませんでした。ミチル号はずっとひとりぼっちでした。やがて、冬がきました。ミチル号は、

はと小屋の近くであきら君のお父さんを見つけた。あきら君の手紙をわたそうとしましたが、お父さんはどんだんやみ道の道があるいていてしま、とうとうわたすことができな



みじかいしあわせ



それからしばらくしてミチル号は「ひじやま号」という一羽のおすばとに出会います。やがて二羽はおたがいを好きになりました。そして二羽でいっしょにくらしはじめました。まもなくミチル号はたまごを生みました。しかし、やがて生まれたひなはすぐにつめたくなってしまいました。

それから半月後、ミチル号はあたらしいたまごを生みました。こんどこそいいひなをかえそうとふうふでがんばりました。ところがいままで

げんきだったひじやま号が病気になるてしまったのです。そして、あと少しでひながかえるという日に、ひじやま号は死んでしまったのです。みじかすぎるしあわせでした。

おかあさんになったミチル号



のこされたミチル号はたまごをあたためつづけました。そしてついにからをやぶって元気なひながでてきました。ミチル号はおかあさんになれたのです。ミチル号は子ばとにいままでのことをはなします。あきら君のこと、お兄さんたちのこと、そして最期までやさしかったひじやま号のことを。

しかし、原爆がおちてからちようど一年がたとうとしていた七月のおわりのことです。ミチル号ははげしいめまいにおそわれ、すんとおちてしまいました。ミチル号はいつたいどうなってしまうのでしょうか。

8月の特集



戦争・平和



『まちんと』

『おぼけ煙突のうた』

『かわいそうなぞう』

『せかいいちうつくしいぼくの村』

『地雷ではなく花をください』

『マリアンナとパルーシャ』

『マアを返して下さい』

『デイゴの花』

『えんぴつびな』

『ちいちゃんのかげおくり』

『絵本 火垂るの墓』

『二十四の瞳』

『八月がくるたびに』

『ひろしまのピカ』

松谷みよこ

早乙女勝元

土家由岐雄

小林豊

葉祥明

東ちづる

わしおとしこ

桜井信夫

長崎源之助

あまんきみこ

野坂昭如

壺井栄

おおえひで

丸木俊

『ムッチちゃん』

『びんたあめあられ』

『伸ちゃんのさんりんしゃ』

『小さな赤いてぶくろ』

『わたしのヒロシマ』

『飛べ!千羽づる』

中川正文

水谷章三

児玉辰春

西野綾子

森本順子

手島悠介

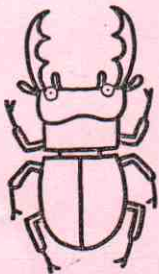
(このほかにもあります)



『いわい話』
*本の夢号の8月の特集



なつやす
夏休みもいくよ!
ほんの森号とほんの夢号は
なつやす
夏休みのあいだもまわりま
す。カレンダーをかくにんし
て、返しわすれた本や、かり
たい本があつたらせひきてく
ださい。予約してくれた本も
用意ができたらもつていきま
す。図書館でかりた本も返せ
ます。みんながきてくれるの
をたのしみしています。



うさしみんとしょかん
宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田 1017-1

でんわ/0978-33-4600

ファックス/0978-33-4679

